



波紋

設立して6年めを迎えることができました

—5年間の足跡と絆を大切に、これからも力を合わせます—
皆様のあたたかいご指導ご支援は、わたくしたちの大きな力大きな支えです。
本年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

NPO法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 井口 衛

今日もサポートセンターの活動は営まれています。「子たちに力を、子たちと夢を」とともに学び、ともに生きていきたい。子どもたちの熱い想いをしっかりと受けとめ活動するスタッフの姿に頭がさかります。

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延1219-104
TEL・FAX: 044-877-0553
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/
印刷 西桜印刷株式会社

特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波紋」 第6号
発行人 井口 衛
題字デザイン・山口正勝

さて、20年度の活動をふりかえりますと、第一に組織の充実をあげることができました。事務局の努力により各業務の内容・分担も整備され役員会、理事会、総会も定例化されました。第二は「不登校の対応におけるNPO等の活動に関する実践研究事業」の報告書に作成・報告会の開催でした。(昨年3月26日・294人の参加者がありました) 報告書は文部科学省委託事業4年間のまとめとして、またNPO設立以来4年間の活動の集大成としてまとめましたものです。報告書をひもとく時、この5年間の「あの時、あの場所」を想いながら「出会いの不思議さありがたさ」をしみじみと感じております。川崎市教育委員会、同総合教育センター、生涯学習財団、退職校長会、公立学校校長会、教職員、PTA連絡協議会、教育関係諸機関、市民活動センター、各区役所、地域市民の皆様・・・また、この間、東京応化科学技術振興財団をはじめとする諸団体による助成費助団体、賛助会員の皆様による

物心両面にわたるお力と支え、多くのご厚情があることをいつもスタッフ一人ひとりが心したものです。20年度の活動の様子は紙面で報告があります。ご参照ください。年度の計画をもとにより成果のうちに終わることができたと考えています。
多くの場の中で活動された皆様の熱意と努力に心より感謝申し上げます。



◎21年度に向けて

今までの活動にあわせて「大山街道ふるさと館」の指定管理、「子どもサポート南野川の受託事業、各区役所との「子ども支援」事業の連携をはじめ活動の場は広がりをもせています。そして、文科省の委託事業の継続(本年度も)ありがたいことです。不登校への対応の場として他にないだろうか協議の中でも話し合われています。未来に目を向けた組織の活性化も当面の大きな課題です。

「深めると広がる」

今、日本は経済面だけでなく大きな変革の時を迎えています。しかし、次世代をになう青少年の健全育成を願う気持ちは国民共通だと考えます。その根元には「教育力」があると思うのです。初心を忘れることなく、少しでも川崎の教育、子どもたち、市民の皆様にお役に立ちたい。日々の営みを大切にともに力を合わせ進みたいと思うこのごろです。

今後とも皆様のお力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
(友よ友)

21年度活動方針・事業計画

法人設立の理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるよう、組織機能が一層充実するように推進する。

1. 活動方針

① 家庭・学校・地域および教育関係機関等との連携をして各学校の教育活動の充実発展を支援する。

② 一人一人の児童生徒が目標を持ち、生きる力を身につけるよう支援する。

③ 組織力の充実と諸活動の充実、活動会員の補充・充実と賛助会員の増員を図る。

2. 事業計画

本年度から「こどもサポート南野川」の運営、「大山街道ふるさと館」指定管理が加わった。
不登校児童生徒の学校復帰を中心に支援活動に取り組む。

① 学習指導部
(1) 学習指導部
不登校児童生徒の学校復帰を図るため、理事・活動会員の増員を図り、児童生徒のニーズに配慮する。

② 日本語指導

海外からの帰国児童生徒、外国人への支援を図る。

③ 宮ノ下キッズ

夏季休業中に学習の遅れを回復し学習の充実・発展を検討する。

④ サイエンスキッズ

理科離れを食い止める方策を更に推進する。

⑤ キッズ・セミナー

生涯学習財団を会場に「得意な教科はさらに得意に」「疑問、矛盾を解決する自由研究」等個性伸張の学習支援を行う。

① 相談適応

不登校児童生徒、軽度特別支援児童生徒、反社会的行動傾向のある児童生徒の相談活動を推進する。

② ふれあい活動宿泊体験

不登校児童生徒が心を開き軽度特別支援児童生徒が軽快に活動できるよう、子どもに活力をつけたい。

③ 体験活動

鎌倉遠足、修学旅行を再現したり各種体験をさせる。

④ 特別支援

定款に新設された支援事業を充実させていく。特別支援教室の担任経験者、指導主事経験者、行政で対応した経験者の充足を図る。

⑤ 学校との連携

児童生徒がNPOでの学習、生活状況の改善等を学校に連絡し、学校との連携を深める。



- ③ 事業部
 - ① 青少年の家・管理運営事業
前年度に引き続き自主事業の取り入れ等、事業の発展を図る。
 - ② 教育会館・管理相談事業
会館の管理と同時に教職員の多様なニーズに応える相談活動を充実する。
 - ③ 大山街道ふるさと館事業
館の管理運営と同時に文化活動、講演活動、展示活動に職員のノウハウを活用する。
 - ④ 「こどもサポーター南野川」
管理指導事業
不登校児童生徒、軽度特別支援児童生徒、反社会的行動傾向児童生徒の学習支援を図っていく。
 - ⑤ サポーター派遣事業
前年度同様、学校へ年間を通して主に大学生を派遣する。
 - ⑥ 輝け☆明日の先生の会事業
教員を目指している大学生等を対象に実施。年間15回、ゼミナールを6回予定。
- ④ 新しい学校づくり☆川崎塾
学校経営混乱を未然に防止し、学校改善を図る教師塾
- ⑤ 学校図書有効活用事業
休日や長期休業中等を活用し学校図書館を児童生徒および市民に開放する。
- ⑥ 文化講演会
教職員、PTA、市民向けに、文化向上を図る講演会を企画開催する。
- ⑦ 各区から受託した事業
本年度は川崎区、中原区、高津区、宮前区から、子育てに関する事業を受託している。各区民の期待にそうよう、また、各種の問題や課題の未然解決が図れるよう、それぞれの区と綿密な連携をしながら事業を推進していく。

不登校への対応におけるNPO等の活動に関する実践研究事業発表会

17・18・19年度の3年間を当センターでは文部科学省より標記の研究委託を受けスタッフ一同その研究に取り組んできた。その報告発表会は、昨年3月26日(水)に実施したところである。(参加者は154人)



引き続き20年度もその研究が委託され、まともとしての発表が3月26日(木)に教育会館で行なわれた。全体会、分科会全体の順に行なわれ、はじめの全体会では、研究の報告を、その後の分科会(小学校部会・中学校部会)にわかれて研究討議)そしてまた、全体会で各分科会の内容を報告質疑応答の後、日

本女子大教授鶴養美昭先生の指導講評で幕を閉じた。参加者は小学校の現職の先生を含めて294人であった。



小学校部会

M・L、学校復帰にいたった事例がパターン別に報告されました。NPOの相談担当者や学習担当者の献身的な対応と、学校や医療、

サポーター配置事業

本年度のサポーター配置は小・中とも、教育活動支援と特別支援教育に携わる学生等のサポーターを峻別し配置する。年間、1校当りの標準配置回数は、教育支援は30回、特別支援は割り当て回数となる。1回当りの勤務時間は4時間以内。担当理事(小・梁部、川田中・渡邊、佐藤)

関係機関との緊密な連携によって、子どもが力づいていく姿に感動しました。

- また、参加者からは次のような貴重なご意見が寄せられました。
- 愛情込めて接すること
- その子の立場に立つこと
- 先を見通させること
- 早期に手を打つこと
- 一人で抱え込まないこと
- 不登校は担任を顧みさせる
- 司会者が、理事長の「深まれば広がる」を引用し、「関係者の私たちが手を携え深めよう」と、使命を再確認しました。

中学校部会

学校復帰のパターン別まともとして、「クラスの中に居場所がなくなくなったE子」「家庭訪問から来所できるようになったN男」等の15事例が報告された。協議内容を要約すると次のようになる。

不登校になった要因は多岐にわたるが、中でも学習の不安が多く、個に応じたカリキュラムを作成し、

川崎市青少年の家指定管理受託

エコチャレンジ
モツゴの放流、環境実験、野菜の栽培、エコクッキングなどを通して身近な生活環境について考え、さらに取り組んでいく力を育成している。ほのぼのスクール
4泊5日青少年の家に宿泊しながら通学。家族の存在認識や家庭を離れての自己発見、寝食をともにした友との交流など貴重な体験をしている。



学習活動を通してその悩みを聞くことが大切である。さらに、学習後のカウンセリングも欠かせない。生徒理解には常に生徒の親身になり、教師自身が変わっていかねればならない。

また、保護者の子どもへのかかわりも悩みが深く、子育ての支援活動も考える必要がある。

新しい学校づくり☆川崎塾

中堅教員を対象としたこの事業も3年目を迎えました。今回は年齢層も幅広く、30歳台と50歳台の方々が受講されました。学校の抱える諸問題について、講話や協議会を通して考えを深め合うことができました。年8回、講師には、前校長、現職教員、行政職の方々がお願いしました。本年もよろしくお願います。

「輝け明日の先生の会」開設

総合教育センターの委託で始められたこの会も、3年目を迎えました。川崎市の教員を志している臨任・非常勤・学生等の若者が120人ほど受講し活気ある講話やゼミが毎回進められました。4月からこの会出身者が教壇に立ちました。子どもたちに信頼され笑顔で活躍することを願っています。

学ぶ喜び楽しめ

「ほいほいの子たち」

おもしろくなった学習

私は1年前からサポートセンターに通っています。サポートセンターでは国語と算数を勉強しています。算数では先生が優しく、わかりやすくおしえてもらい算数がおもしろくなりました。国語では、私が好きな漢字をやりました。ま

ちがえたところは、5回ずつ練習して覚えめました。他にも社会や理科をやりました。理科では先生がスライムをつくったりしました。社会は、わかりやすいように先生がお手本を見せてくれます。いつもお茶を入れてくれたり、アメをもつてきてくれたり勉強が楽しくなりました。また、大勢でやる勉強も楽しいです。プリントで「がんばったね」「よくできたね」「すごいね。」などと声をかけてくれることがとてもうれしいです。これからもサポートセンターで勉強して、勉強を得意にしたいです。

(小5・M・F)

サポートセンター大好き

私はいま、サポートセンターに通っています。サポートセンターのいいところは、やさしくわかりやすく教えてくれるところと、ほ

とんどの先生が、笑顔なところ

で、やさしく、わかりやすく、教えてくれると、はげまされるし、わからないところがすらすらできたりするからです。とくに私は算数

が大好きなので、やさしく教えてくれると、すぐわかるので、とてもうれしい気持ちになります。知っている友達といっしょにやれるのもうれしいです。

「温かな心に感謝」

わが娘は、現在5年生です。

5年生ともなると、学校での勉強も少々難しくなり、算数などは、親の方も、教えることが困難になってきて、どうしたものかと、だからといって進学塾のような所へ、通わせるのも、やはり抵抗があり、無理に塾へ行かせるのはかわいそうですし、どうしたものかと...当

の笑顔でいわれると、「きょう1日がんばるぞ」と思えるからととてもいいと思います。私はそんなサポートセンターが大好きです。

(小5・T・M)

『夢は絶対にかなえる』

私がサポートセンターへ通い始めたのは中学1年生のころでした。ここでは、自分のペースで自分の苦手なところをわかりやすく教えてくださいました。受験の時には、自己PR書の書き方や面接の練習、アドバイスをもらいました。

そのおかげで、前期試験で合格することができました。いまは、高校へ行っても困らないように中学1年生の勉強から復習しています。私の将来の夢は保育士になることです。私は幼いころから自分より年下の子と関わるのが多くて、よく面倒をみていました。いまでも子どもは大好きで、学校の授業

で行った保育園では、短い時間でしたが、幼児とたくさんふれあうことができました。このことをきっかけに保育士になりたいと思いました。少しでも早く保育士になりたいと思い、保育士の勉強ができる高校を受けました。その高校では資格をもらうことはできませんが、高校で少しでも多くの知識を身につけて将来の夢をかなえたいと思います。

(中3・M・C)

感謝

朝、起きると父の突然の死。何

がなんだかわからない状態で、韓国の8年間の生活にピリオド。帰国。

日本の学校生活の経験がない私はなじむことができず、辛い毎日が続いた。

不登校になった。1年後、サポートセンターに通いはじめ先生方が

いやでなく、楽しんで通っていることが一番だなあと感じます。

サポートセンターに、楽しく通えるのは、やはり、K先生の、温かな心があるからなのだと思います。子どもたち、一人一人に合った指導を密にしてください、とても、ありがたく思います。センターへ行かせて本当によかったです。ありがとうございます。K先生はじめ、センターの先生方に、感謝の気持ちでいっぱい。ありがとうございます。

(小5母・M・I)

に会った。高校受験が控えていたため、一生懸命勉強し、志望校に合格することができた。うれしかった。

熱心に授業してくださいました先生方に感謝の気持ちでいっぱいだった。自信を持つことを教えてくださいました。私の将来の夢はテコンドー選手になって、オリンピックに出場すること。ぜひ、実現したい。高等学校では、学校生活を楽し、しっかりと勉強し、自信を持って、サポートセンターへ笑顔でまた、顔を見せに行きたい。私が一番に思っている「ありがとう」です。

(中3・R・H)

『子たちの喜びを感じて』

約1年間の学習支援を通して、多くの子どもとかわかり、変容を見てとることができた。

学校のテストを振り返りながら「サポートセンターに来て成績があがり、勉強も楽しくなりました。」と満足げな表情をみました。子どもの喜びが真すぐに伝わってくるメッセージを受けとることができた。学ぶ楽しさとともに、経験の少ない子どもにとってチャレンジすることと習慣づけは大きな意味を持ち、それが喜びとなることもある。

できるようになることの喜びを実感させ、「やればできる。」という自信を一人でも多くの子どもたちへ伝え続けていきたい。

(サポーター・S・K)

教育相談活動にあたって

開設6年めを迎え、皆様のご要望にこたえるべく担当者一同努力を続けています。

市民、学校、関係機関の方々のご理解、ご協力をいただき、平成20年度の来所相談件数は、144件と前年より39件多くなりました。

相談には、保護者や子どもがいろいろの思いを持って来所されます。その内容は、①勉強が思うように進まない、授業がわからない等学習についての相談が55件。②学校に行きたいが授業がわからない、友だちとの関係が悪い等不登校、不応応についての相談は65件。③発達に心配がある、発達障害等の特別支援教育についての相談が24件となっています。

相談活動では、保護者の願いや子どもの気持ちを大事にします。そして、相談担当者、学習担当者が1対1で子どもの勉強をしたいと言っている大切に、子どものできるところから学習活動を始めます。

この個別学習活動は、教科の学習を通して、子どもが、自分でできた、もつとやりたいという達成感、充実感を体感することにより学習意欲が高まり、自分に対する自信を持つようになり生活全体に行動の広がりが出てきます。この春は、18人が高校等を受験、晴れ晴れとした表情で合格通知を見せてくれました。(相談適応部長 片山世紀雄)

「こどもサポート南野川」の受託

宮前区の子ども包括事業として、旧南野川幼稚園を利用し不登校の子どもたちの居場所づくりや、保護者支援を行うこととする委託を受けた。この地は、山坂が多く区役所への道のりは不便であるため、「出前相談」を含め包括的な子ども支援を行う場所となる。下作延の活動の実績を認められたうえで、このことである。緑が多くおいしい空気の中発展する町並を臨みながら、学習や農作業等、心豊かな支援活動を実践していきたい。

大山街道ふるさと館

今年度から川崎市生涯学習財団と連携を取り合いながらふるさと館の運営にあたります。今までの企画展示や講演会等の文化事業に加えて、地域に育つ子どもたちの郷土愛を育む活動も考えております。財団と協働・連携の中で事業を充実させ、さらに魅力ある施設になるようスタッフ一同努力しておりますので、今まで以上に力添えをお願いいたします。

協働・連携を 通しながら

思春期の子どもたちにふれ

先日のテレビに「私は草食男子です」と自称している若者たちが映っていました。仕事や学業等を誠実にまじめにこなし、自他ともに一定の評価を得られている一方で、深入りしたり、篤くなることはなく、淡泊にしてスマートなところが若い女性に人気があるようです。私はこうした成人の安定した人格にふれ、未成熟な思春期の子どもたちのやがての姿をみるようで、安堵に近い思いをしたものでした。草食男子の中には自己の能力を低く自己評価しているがために、常に不安な状態にあるもの、他人には悟られないようにする術を心得ている人がいると思われまます。こうした人のように有能感や自尊心をもてない状況は、思春期前期の子どもたちにもみられることが、これまで出会ってきた子どもたちから知ることができまます。発達のうえで変化の激しいことの時期の子どもたちは、自己の適性や特性等の自己イメージや自分のできることや、やることよいことなどの役割の自覚が弱く、交友関係の中に基準を求めてやまな日々を過ごしています。友だちに嫌われないようにと神経を張りながらも、決して自己の内面や本音を知られないようにする状況にあります。ストレスが高じて心のバランスをくずし、自身を支えなくなる子どもたちは、自身を不安をさまざまな形の問題行動と

さらなる 発展を願って

多くの活動会員と賛助会員の皆様の温かいご協力とご支援をいただき「サポートセンター」の活動も6年めを迎えることができました。学校に足が向かない不登校の子どもたちに、学習支援を中心に活動してその事例研究を重ねてきました。その結果として平成21年度も文部科学省の「実践研究事業」の委託が決定しました。今後は学校復帰した多くの事例を基に研究を積みあげて推進していきたいと思っております。平成20年度は多くの方々の協力のもとに、約20の事業を運営し活動してきました。今年度は新たに

して顕在化します。問題行動となる子どもたちの突然のいわゆる言動やいじめ、反社会的行動などの情動と脳機能の関係について、科学的に解明する研究が脳科学の専門分野で進められています。その成果を教育に応用する研究が、当サポートセンターにも求められていると受けとめています。(理事 石原由美子)



「大山ふるさと館」の管理運営をはじめとして、川崎区、中原区、宮前区の子育て支援等の新規事業がスタートしています。今まで積み上げてきた従来の事業と新規の事業とが相互に連携し協力し合いながら、子どもたちの健全で心豊かな成長を願って支援していきたいと思っております。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。(事務局次長 佐藤 剛)



◇咲き始めると、瞬間に満開を迎え、散り際も潔い桜だが、今年度は半月以上も咲続けた。気候変動が年々複雑化し劣悪化しているとの報道に頷けるものがある。◇並木の桜や野原の一本桜は老木もあれば若木もある。桜は礼儀正しく老木から花開く。若木は老木に「開花はお先にどうぞ」と語りかけているという。◇理事・監事が50人を越え、活動会員が100人を越えた。学校派遣の大学生も300人をはるかに超した。◇NPOの活動は各事業で働く職員(退職教職員)の善意と協力で成立している。「善意と協力をボランティアの精神だ」と捉える時代は過ぎ去った。NPOで献身的に働く職員に見合う給料の支給を望むが、なかなか難しい。この事業の主旨に賛同され、賛助会員が多数になることを切に希望している。(事務局次長 宮田 進)